



令和元年 8 月 1 日  
第 36 号

発行所  
青森県立青森高等学校同窓会  
事務局  
青森県立青森高等学校渉外部内  
〒030-0945  
青森市桜川 8-1-2  
TEL (017) 742-2411  
FAX (017) 742-6074

### 地域全体での学校支援



同窓会会長 柳谷章二

我が青森高校は、二〇二〇年（令和二年）九月に学校創立百二十周年を迎える事になります。創立以来数多くの優秀な人材を輩出し、今後共、青森県内の文武両道のトップリーダー校を目指して行く事が求められています。この記念すべき創立百二十周年にあたり、母校の更なる発展と躍進を願って、後援会・父母教師会と同窓会とが一体となって協賛会を立ち上げ、弓道場の新設とグローバル人材育成の基金づくりの募金活動を、昨年八月から展開してきました。募金活動を展開する中では、募金活動体制、募金方法等に就いて不備な点や御批判を色々とお指摘いただきました。そのアドバイスには運営会議を毎月開き、反省点を改善し推し進めてきた所です。その経過として、今年六月末の段階の成果としてはお陰様で弓道場の新築に要する目標額にまで募金実績が積み上がってきました。これは千七百人以上の同窓生、百件を超える法人・団体様から協力戴いている所です。改めて協力戴きました方々に、紙上からですが御礼を申し上げる次第です。

明治十七年（一八八四年）八月青森新町に、旧津軽藩倉庫を仮校舎として青森県中学校が設立され、同年十月に開校式を行った。この間明治維新後、政治の中心が県庁所在地青森町に移ってきており、それまでの中心地であった弘前が武士階級没落とともに

軽藩倉庫を仮校舎として青森県中学校が設立され、同年十月に開校式を行った。この間明治維新後、政治の中心が県庁所在地青森町に移ってきており、それまでの中心地であった弘前が武士階級没落とともに

に町勢衰退の流れにあり、文教の中心地回復を目指した運動熱が高まり、「青森は新興商業都市で土地卑湿・海港のため風俗淫猥、教育に不適当」との世論攻勢を図っていた。

そして明治二十一年十月文部大臣 森有禮が青森県を視察された。（尚、同氏は視察中授業内容に不備があると、教壇を駆け登って教員を頭ごなしに叱り飛ばしたとも言われており、厳しいものであった。特にこの時代帝国に必要な善良なる臣民の育成と言う教育観を徹底した人であった。）この時の同大臣の発言「青森の尋常中学校を弘前に移転するのは至極適当なり」もあり、明治二十二年に（弘前出身の議員勢力の強い）県議会の議決により弘前への移転が可決され、四年九カ月青森に存続した青森県尋常中学校は弘前に移転した。更に明治二十八年には八戸中学校（青森県尋常中学校）が誕生した。

以後、青森町長 工藤卓爾氏の県知事への明治二十九年の請願書等を始めとする中学校開設運動が急激に大きく高まり、明治三十三年（一九〇〇年）九月設置認可を受け、翌明治三十四年（一九〇一年）四月開校にこぎつけたのです。この間の背景として当時の青森町と弘前町の政治的実力の差、青森町民特に商人層の普通教育への関心が故と論評されています。

そこで、百二十周年を目の前にして思うのですが、教育は社会全体・地域全体で支えるべく、強い関心を持ち発言をして行くべきものと同窓生各位に理解を求めるものです。



校長 穴倉慎次

### SGHの成果と青高の現状等

日頃より、柳谷会長をはじめ同窓会の皆様からは、本校の教育活動に対し御理解と格別なる御支援を頂戴し、心から感謝申し上げます。特に一年後に迫ってまいりました本校創立百二十周年記念に向け、同窓会が中心となって記念事業を計画し、その成功を願ひ募金活動を行ってくださったこと、しかも、その目標額を早々に達成して頂いたことに厚く御礼申し上げます。これにより、長年に渡る悲願でありました弓道場の新設が実現されることとなりました。弓道部は、現在一、二年生だけでも五十名弱の部員数を誇り、新弓道場を待ち焦がれており、教職員一同を代表し、重ねて感謝申し上げます。

自己管理能力、自己実現力等を存分に発揮し、活躍してくれるものと思っております。

さて、本校は昨年度までの五年間、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けておりましたが、その成果について若干言及させていただきます。この春卒業いたしました六十九回生は、特に英語力が飛躍的に高まったことがその成果の一つとして挙げられます。大学中級レベルと言われる実用英語技能検定準一級の合格者は十名にも達しました。さらにその上の一級にも一名合格いたしました。SGH指定前は青森県内全体でも高校生の準一級の合格者数は四、五名程度で推移していたことを考えると大きな成果であり、まさに出藍の誉れとはこのことであると思えます。そのような高度な英語力を武器に将来必ずや国際舞台で、青高で身に付けた知力・学力はもとより、課題解決力、論理的思考力、原因分析力、受信力・発信力、

また、SGH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定は今年度三年目を迎え、理数系分野への興味関心が高まりました。特に、物理、化学、数学等の科学オリンピック大会予選への参加者は昨年度三十五名でした。数学では本選にも一名が出場しました。さらに特筆すべきこととして本校自然科学部化学班の「マイクロプラスチックについて」という研究が化学研究コンテストで上位入賞を果たし全国高総文祭佐賀大会への出場を果たしております。さらに昨年度からはベトナムにおけるフィールドワークも体験し、開発途上国の現状を知るとともに、自分たちに今後何ができるのか具体的に考える機会を与え、いわゆる「科学者の卵」を大切に育てております。

さて、これまでグローバル人材育成のために二十年の長きに渡って同窓会並びに後援会から御支援を賜り、ニュージランドで語学研修を実施して参りました。そして、その事業の役割は十分果たしたと考え、昨年度で終了いたしました。今年度からは、探究型学習の一環として、シンガポールでのフィールドワークに形を変えさせて頂戴しました。これからはグローバル人材の育成という観点で、多様な教育活動を行って参りますので、同窓会の皆様からは変わらぬ御支援を頂戴できますことをお願い申し上げます。

また、SGH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定は今年度三年目を迎え、理数系分野への興味関心が高まりました。特に、物理、化学、数学等の科学オリンピック大会予選への参加者は昨年度三十五名でした。数学では本選にも一名が出場しました。さらに特筆すべきこととして本校自然科学部化学班の「マイクロプラスチックについて」という研究が化学研究コンテストで上位入賞を果たし全国高総文祭佐賀大会への出場を果たしております。さらに昨年度からはベトナムにおけるフィールドワークも体験し、開発途上国の現状を知るとともに、自分たちに今後何ができるのか具体的に考える機会を与え、いわゆる「科学者の卵」を大切に育てております。



統合青高28回生

私的還暦

小野寺

剛(60歳)

(昭和53年3月卒業)

どこで青森高校生を見かけても、自然と微笑みが浮かんでくるような年齢になりました。自分自身の青臭くて甘酸っぱい思い出がそうさせるのだと思います。

「寿命百年時代」「八掛けの人生」と言われるようになってから久しくなりました。つまり今年六十歳になる私たちは昔の四十八歳です。つい「48」という数字に勘違いしそうですが、今の六十歳も昔の四十八歳も：人生の下り坂に差し掛かっていることに違いはありません。昔よりなだらかになった人生の終着点までの下り坂を、周りの景色を楽しみながらゆつくりのんびり下れたらと思う今日この頃です。

趣味として同年代の仲間とカーリングを楽しむようになって十数年が経ちました。私の信条は「昨日出来ていたことが今日出来なくなるとしてもがっかりしないこと。明日出来なくなることが増えないように今日練習しよう！」です。体力気力のピークは過ぎていても情熱や感動、知的好奇心はまだまだピークを迎えていないはず。カーリングにはそんな思いを実感させてくれる魅力もあります。これからも仲間と共に細く長く続けていきたいと思っています。

子供の未来を支援する活動のお手伝いもしています。私には子供が四人いますが、今は子供たちも成長し、直接子育てに関わるPTA活動など

の機会はめつさり減りました。それでもいまだ冷めやらぬ子育てに対する熱い思いや、今までたくさんのボランティアに関わってきた経験を生かしたいとの思いから新たな活動を始めました。最近では子供が被害者の、思いもよらない悲しいニュースを耳にする機会が増えています。愛情と安心できる日常に恵まれて、生きていくことの楽しさを感じてくれるような未来を想像しています。一人の子供ももらすことなく。と願ってやみません。

そんなこんなで毎日忙しく過ごしているとうっかりするとやっばり、昔の四十八歳ではなく今の四十八歳と勘違いしそうなところがあります。忙しさもそっかしさもまだまだ現役。加えてこれからは、目が霞むようになったり、スコーンと記憶が抜け落ちるようになったり。周りにもっと支えられていくことになるでしょう。

人生下り坂は感謝を忘れることなからますます精進したいと思っています。

統合青高38回生

風を受けて前へ進もう

佐々木 功 拓

(昭和63年3月卒業)

我々青高三十八回生は、昭和最後の卒業生。昭和・平成・令和と三つの時代を駆け抜けてきた中で、変わらぬもの、変わりゆくもの、形を変えつつ受け継がれていくものなどに、自然と目が向くようになってきました。そしてまた、人生百年時代



38回生テーマポスター

と言われる昨今、丁度折り返し地点に差し掛かったこともあり、「残りの人生をいかに生きるか」という視点でもの事をとらえる機会も増えてきたように思います。

卒業以来、同期の音信も途絶えがちだった八年ほど前、そこはかとなく同窓会に向けての機運が高まりつつあることに気づかされました。しかし、当時は実感が湧かず、代表幹事の身でありながら「まだ先の話」と言い聞かせ、現実から目を背け続けていました。

が、いよいよ来年は当番幹事という時期がやってきました。何をどうしたらよいのか途方に暮れ、ただただ不安と焦りばかりがつのる毎日。そんな頃、幸いにも同窓会の運営に精通した先輩方から親身な手解きを受ける機会に恵まれ、また、次第に仲間達が集まり始めたこともあり、少しずつ構えは描かれていきました。そして気がつけば、先輩方や仲間たちが私の心の帆の向きを変えてくれたことよって逆風は順風となり、「これは大人の青高祭、みんな徹底的に楽しもう！」と前向きになった自分がそこにいました。

時は折しも東日本大震災の翌年、被災地はまさに復興真っ只中のいわゆる「復興元年」。私自身、震災直後に被災地を訪れ、目の前の現実言葉に言葉を失った経験があったことか

ら、「辛い、苦しい、悲しい、虚しい」でも、やらなきゃ」との思いをどうにか形にできないものかと考えていました。そのような中、同窓会の「要」であるテーマについては、できる限り多くの同期の参画を目標に広く呼びかけました。結果、百六十三にも及ぶ思いが寄せられ、慎重な議論の末、「不屈・生涯現役宣言」が生まりました。このテーマには、今こそ絆を確かめ合って未来を切り拓いていこう、立ちほだかる苛烈な運命に決して屈することなく最後の瞬間まで誇り高くあろう、という我々三十八回生の熱い気持ちが届かれています。

いよいよ迎えた同窓会当日。数十年の時を経て再び集った仲間たちは、離れ離れだった時間を微塵も感じさせることなく一丸となり、見事に本番をやり遂げてくれました。それぞれの持ち場と役割を完全に理解し、手際よくテキパキかつ丁寧におもてなしをしている仲間の姿に心底感動し、深謝したことが今でも鮮明に蘇ります。当番幹事は、公私共に責任世代になりつつある頃に巡ってきました。そんな人生のステージで再会して同窓会の成功という目標を共有し、成し遂げる。それは卒業以来遠ざかっていた、あの懐かしい感覚でした。そして、同期の横糸は先輩後輩の縦糸と交差して青高生というかけがえのない縁が紡がれ、後の代まで脈々と受け継がれてゆく。私は、当番幹事を振り返り、初めてそれが持つ本質的な意味を理解できた気がします。

時の移ろいとともに変わりゆく母校の姿や街並みに、正直少しだけ寂しさも感じますが、ある日母校を訪

れた際、校地の桜並木を吹き抜ける風と匂いは、あの頃のまま変わらずに私を迎えてくれました。そこには、たとえ時が流れ形は変わっても、しっかりと受け継がれたイズムが、確かにありました。来年初立百二十周年を迎える青森高校、そして青高生及び卒業生の皆さんが、大きなその帆に薫風をはらみ、新たな時代の海においても変わらぬ躍進を続けられますよう心から願っています。





# 俳句結社「三四郎句会」が

## 発足しました

去る七月七日、県民福祉プラザ小会議室において、俳句結社「三四郎句会」が発足しました。この句会は、私と四十四回生の山口忍氏が、かの寺山修司を生んだ青森高校の卒業生でもって、俳句のグループを発足させようではないか、と意気投合し、発足にこぎ着けたものです。青森高校卒業生七名が参加した当日の発足会には読売俳壇選者の小澤實先生を講師としてお招きし、初心者講座及び句会を行いました。句会での主な句を紹介します。



右：小澤實先生  
中央：三四郎句会代表の山口忍氏

宵祭り ふるさといつも とほくあり  
山口 忍

ピアガーデン 一人愉しむ 雨男  
稲見 公介

夜勤明け 歩行器押して 玉の汗  
鈴木 清友

夏椿 散るや垣根の 内と外  
小山内豊彦

まだ小さな句会ですが、俳句にご興味のある方は是非ご参加ください。お待ちしております。

同窓会副会長 二十四回生 小山内豊彦（昭和四十九年三月卒業）

# 青森高校ゴルフ同好会「無限会」

## ■本会について

本会は今年で四十三周年を迎えた同窓生で構成するゴルフ愛好会です。活動概要は左記のとおりですが、常に和気あいあいと楽しいゴルフを目指し、八十歳を超えるベテランメンバーも若い初心者メンバーも一緒になって、同窓生同士の旧知を深めたり、好プレーや珍プレーに感心したり笑ったりしながら年五回のコンペを楽しんでいます。

尚、今年度は**新入会員の方は年会費無料の特典**が与えられているほか、卒業生だけでなく現職・元職を問わず青森高校教職員の方々も会員になれるようになりましたので教職員の皆様も是非ご参加ください。**成田昌造前校長先生も早速入会され、プレーを楽しんでいただいています。**

## ■活動の概要

- 1 会長 19回卒業 沼田 廣
- 2 メンバーの条件

本校同窓生及び本校教職員（現職・元職）であること

4月募集・随時入会可能

他校生でもゲストとしてオプザーバー参加可能

3 活動場所 青森カントリークラブ

4 活動回数 5・6・7・9・10月（年5回）

毎回6〜10組（24〜40人）が参加

8月に行われる3校（青高・八高・弘高）対抗戦への積極的参加。

例年3校合計約140人ものゴルフ愛好家が集まり、表彰式では賞品も数多く大変盛り上がりがあります。

懇親会（10月）の実施

5 活動方法 ダブルペリア方式によるストロークプレー

1〜5位・BG賞・BB賞・飛び賞・参加賞

6 現在の会員数 64名

7 年会費 3,000円（事務費）

8 例会参加費 2,000円 全て賞品（日専連ギフトカード）として還元

9 事務局 19回卒業 池田 好明

青森市筒井字八ツ橋156 Tel/Fax 017 (738) 6197



平成30年度青森高校同窓会庶務報告

平成30年6月1日～令和元年5月31日

年 月 日	項 目	年 月 日	項 目
平成30年 6月5日(火)	同窓会会計監査	10月18日(木)	同窓会講演会 講師 第47回生 田邊 優貴子 氏 国立極地研究所 助教
6月21日(木)	第1回同窓会運営委員会	10月27日(土)	青高むつ下北同窓会
6月23日(土)	第1回同窓会役員会	11月21日(水)	同窓会懇親会の会計監査
6月30日(土)	第1回同窓会合同実行委員会	12月13日(木)	第2回同窓会運営委員会 第2回同窓会役員会
8月1日(水)	青高岩手県地区同窓会	平成31年 2月28日(木)	同窓会入会式
8月12日(日)	同窓会会報35号発行	3月1日(金)	卒業証書授与式
10月10日(水)	同窓会総会・懇親会	令和元年 5月12日(日)	東京青高同窓会
10月13日(土)	第2回同窓会合同実行委員会		
	弘前 青高会		

【助成事業】 ニュージーランド海外語学研修 平成30年7月27日(金)～8月12日(日) 参加16人

寄 付 者 名 簿

区 分	団 体・個 人	金 額	用 途
一般・ 寄付金	青森高校バレーボール部同窓会	40,000円	バレーボール部活動資金
	三青クラブ	20,000円	卓球部活動資金
	近藤信義氏	300,000円	図書購入費
	三四郎クラブ	200,000円	硬式野球部活動資金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	自然科学部化学班教育文化奨励金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	将棋部教育文化奨励金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	放送委員会教育文化奨励金
	青森高校ボート部OB会	100,000円	ボート部活動資金
	青森高校15回生 藤原雅夫氏	30,000円	美術部活動資金
	甲田クラブ	100,000円	硬式野球部活動資金
	青森高校4回生同期会(紫青会 藤原健二氏外)	460,920円	青森高校活動資金
	合 計	1,340,920円	平成30年4月～平成31年3月まで

区 分	団 体・個 人	金 額	用 途
一般・ 寄付金	三四郎クラブ	200,000円	硬式野球部活動資金
	三青クラブ	20,000円	卓球部活動資金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	自然科学部教育文化奨励金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	音楽部教育文化奨励金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	文学部教育文化奨励金
	合 計	310,000円	平成31年4月～令和元年6月まで

地 区 同 窓 会 ご 案 内

東京青高同窓会	会 長 太 田 紀 久 副会長 古 跡 隆一郎 事務局 福 田 裕 一 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町2-17-3-203 ☎090-4717-1674	副会長 成 田 龍 信 副会長 松 山 正 弘 副会長 福 田 裕 一 副会長 葛 西 聡	副会長 長谷川 正
県庁無限会	会 長 原 田 啓 一		
青森高校西日本同窓会	庶務担当 小 林 正 彦 〒675-0111 加古川市平岡町二俣51-3 ☎079-436-3603		
仙台中青高女青高会	事務局 竹 内 廣 〒980-0813 仙台市青葉区米ヶ袋3-4-33 ☎022-267-5757		
弘前青高会	会 長 斎 藤 悦 朗 副会長 内 田 敦 子 事務局 小 野 知 正 〒036-8666 弘前市清野袋5-5-1 弘前航空電子(株)内 ☎0172-33-3111	副会長 星 克 行 副会長 佐 藤 義 光	
平内青高同窓会	事務局 竹 内 正 美 〒039-3321 東津軽郡平内町小湊字小湊19 ☎017-755-3973		
青高むつ下北同窓会	会 長 杉 山 幹 彦 会長代行 飛 内 美津男 事務局 工 藤 和 彦 〒035-0076 むつ市旭町10-33 ☎0175-34-9786	副会長 中 村 正 志 副会長 伊 藤 道 郎	副会長 長岡 俊 成
青高岩手県地区同窓会	会 長 山 谷 仁 事務局 藤 原 雅 夫 〒028-3304 岩手県紫波郡紫波町二日町字山子25-2 ☎019-672-4401	副会長 藤 原 雅 夫	



# 平成31年3月卒業生の

# 進路状況

進路指導主事  
笠井 敦 司

本年3月に卒業した生徒の進路状況についてお知らせいたします。

区分	入試年度		31	30
			2019	2018
国立大学	出願数		323	321
	合格数		148	157
公立大学	出願数		42	45
	合格数		13	21
国公立出願数 計			365	366
*国公立合格数 計			161	178
私立大学	出願数		456	362
	合格数		158	114
文科省所管外	出願数			8
	合格数			3
国公立短大	出願数		1	3
	合格数		1	2
私立短大	出願数		1	
	合格数		1	
専修各種等	出願数		1	2
	合格数		1	2

## ■国公立大学合格状況について

国公立	2019年入試			2018年入試		
	H31卒	過年度	計	H30卒	過年度	計
北海道大	3	2	5	2	6	8
弘前大	59	4	63	49	8	57
岩手大	13	2	15	13	1	14
東北大	18	6	24	27	4	31
山形大	3		3	3	1	4
筑波大	4	2	6	5		5
埼玉大	4	1	5	4	1	5
千葉大	6	2	8	7		7
東京大		1	1	2	1	3
東京外大			0	3		3
東京学芸大	3		3	3		3
東京工業大		1	1	2		2
東京芸術大	1		1			0
横浜国立大		1	1	2		2
大阪大	2		2	1		1
その他	45	5	50	55	6	61
合 計	161	27	188	178	28	206

国公立大学の現役合格者は合計で161名でした。東大をはじめとする難関大学には現浪あわせて33名が合格しました。医学部医学科は現浪あわせて13名の合格。激化する難関大受験のなかであって健闘したと言えます。合格

者のうち、推薦・AO入試での合格は33名を数え、国公立合格者に占める割合は約20%でした。例年30～40名が推薦・AOによる合格となっており、近年ますますこの入試方式の募集定員が増えています。教科学力のみならず、高い思考力・判断力、論理的な表現力そして学ぶ意欲が試される多面的な入試にも臆することなく挑戦し、合格を勝ち取る生徒が多いのが昨今の青高生の特徴です。SGHやSSHに係る探究活動が、総合力を育成しているのではないのでしょうか。

## ■私立大学合格状況について

現役合格者は158名で、難関私立(早慶・東京理/明治・青学・立教・中央・法政/関関同立)の現役合格者は合計33名でした。

私立	2019年入試			2018年入試		
	H31卒	過年度	計	H30卒	過年度	計
早稲田大	6	5	11	8	4	12
慶應義塾大	2	1	3	6	3	9
上智大		1	1			0
明治大	2	6	8	3	3	6
青山学院大			0	2		2
立教大		2	2			0
中央大	8	11	19	19	1	20
法政大	10		10	4	3	7
学習院大	1		1			0
日本大	4	2	6	3	1	4
東洋大	2	1	3	5	1	6
駒澤大	3	2	5	2	1	3
専修大	2		2	1		1
津田塾大	1		1	1		1
東京理大	5	6	11	4	2	6
明治学院大	2		2			0
同志社大			0	1	2	3
立命館大		2	2		3	3
東北学院大	7	1	8	2		2
東北医薬大	5	1	6	4	1	5
自治医大		1	1	1		1
その他	98	25	123	48	6	54
私立大学計	158	67	225	114	31	145

## ■医学科合格状況について

国公立医学科への合格者は現浪併せて13名でした。現役生は11名の合格です。医師を志す生徒が多いのも本校の特徴ですが、決して単に学力が高いだ

けでは合格は勝ち取れません。面接やワークショップ、プレゼンテーションなど、高い思考力・判断力・表現力を求める受験方式が取られ、より多面的な資質・能力が図られるようになりました。生徒は校内外でこうした能力を高める対策に取り組み、また県が主催する様々な医師体験事業にも積極的に参加し、医師としての心構えや医療現場の問題点、医学の進歩などについて学びました。将来は本県の医療を背負って立つ立派な医師になってくれることでしょう。

医学科	2019年入試			2018年入試		
	H31卒	過年度	計	H30卒	過年度	計
弘前大	10	1	11	10	3	13
東北大	1		1	3	1	4
和歌山県医大			1	1		0
北海道大			0		2	2
国公立計	11	2	13	13	6	19
岩手医大		1	1			0
東京女子医大			0		1	1
自治医大		1	1	1		1
東北大医薬		1	1		2	2
杏林大		1	1			0
国際医福大		1	1			0
日本大		1	1			0
近畿大		1	1			0
私立計	0	7	7	1	3	4

薬学部	2019年入試			2018年入試		
	H31卒	過年度	計	H30卒	過年度	計
東北大			0	1	1	2
国公立計			0	1	1	2
青森大	5		5			0
東北医薬大	5		5	4		4
明治薬大	1		1	1		1
国際医福大	1		1			0
神戸学院大	1		1			0
東京薬大			0	1		1
星薬大			0	1		1
東京理大			0	1		1
私立計	13	0	13	8	0	8

## ■進路部からのメッセージ

大学入試改革の波は確実に毎年その高さを増し、受験生は対応に迫られます。課せられる新しいスタイルの入試にもひるまず、夢実現に向けてひたむきに挑戦する後輩に、ぜひエールを送ってください。よろしくお願ひします。



部 活 動 の 記 録

平 成 30 年 度

Table with columns: 部活名, 大会名/種目, 成績, 氏名(学年). Includes categories like 水泳部, テニス部, 弓道部, 剣道部, ハンドボール部, 硬式野球部.

運 動 部

Table with columns: 部活名, 大会名/種目, 成績, 氏名(学年). Includes categories like 陸上競技部, ボート部, 水泳部.

平成30年度 各賞受賞者

- List of award winners categorized by sport: ボート, 水泳, 野球, ハンドボール, 将棋, カーリング.



部・委員会名	大会・コンクール名/種目	成績	氏名(学年)
将 棋 部	第61回青森県高等学校将棋選手権大会		
	男子団体戦	第3位	青森高校A
	男子個人戦	第1位	工藤麟太郎(1)
		第5位	木浪 悠太(2)
	女子個人戦	第1位	石川明香里(1)
	第42回全国高等学校総合文化祭将棋部門		
	男子個人	第3位	工藤麟太郎(1)
	第54回全国高等学校将棋選手権大会		
	男子個人競技	第3位	工藤麟太郎(1)
	第39回青森県高等学校総合文化祭将棋部門		
	男子個人戦	第1位	工藤麟太郎(1)
	女子個人戦	第1位	石川明香里(1)
	第19回東北地区高等学校将棋新人大会		
	女子個人戦	第1位	石川明香里(1)
第27回全国高等学校文化連盟将棋新人大会			
男子個人戦	第5位	工藤麟太郎(1)	
第23回全国高等学校将棋女子選抜大会	第5位	石川明香里(1)	
囲 碁 部	第42回全国高校囲碁選手権大会青森大会		
	女子個人戦	第1位	若宮 明陽(2)
吹 奏 楽 部	青森県吹奏楽コンクール第38回 中央地区大会		
	高等学校の部	金 賞	青森高校
	全日本吹奏楽コンクール第60回青森県大会	銀 賞	青森高校
	青森県アンサンブルコンテスト 第43回青森地区大会		
	打楽器三重奏	銀 賞	青森高校
	サクソフォン四重奏	金 賞	青森高校
	金管六重奏	金 賞	青森高校
	木管三重奏	金 賞	青森高校
	クラリネット五重奏	金 賞	青森高校
	優良賞	佐藤 優美(3)	
優良賞	中村友紀乃(3)		
写 真 部	第39回青森県高等学校総合文化祭写真部門		
	優良賞	藤田 里奈(2)	
美 術 部	第39回青森県高等学校総合文化祭美術部門		
	優良賞	藤田 里奈(2)	
箏 曲 部	第39回青森県高等学校総合文化祭日本音楽部門		
	優良賞	青森高校	
生活科学部	第63回青森県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会		
	ホームプロジェクトの部	優秀賞	下山 諒夏(2)
刊行委員会	第39回青森県高等学校総合文化祭新聞部門		
	新聞部門	優良賞	青森高校
自然科学部	第39回青森県高等学校総合文化祭自然科学部門		
	研究発表部門	優秀賞	青森高校
	平成30年度科学の甲子園青森県大会	第3位	青森高校
	平成30年度第6回高校生科学研究コンテスト	最優秀賞	青森高校
国 語 科	平成30年度 税に関する高校生の作文		
		優秀賞	藤澤 花帆(2)
	平成30年度あおりの中学生・高校生による「大切なあなたへ贈る青春の一冊」		
		優秀賞	澤田 佳奈(1)
	高校生の部	奨励賞	相馬 瑛翔(1)
		審査員賞	福富 葉月(1)
	高校生環境小論文コンクール	優秀賞	幸田 野花(2)
第11回田辺聖子文学館ジュニア文学賞小説部門			
高校生の部	優秀賞	鎌田 陽都(2)	
数 学 科	第29回日本数学オリンピック予選		
	Aランク賞	中嶋 祐斗(2)	
	地区表彰	西 陽子(1)	

文 化 部

部・委員会名	大会・コンクール名/種目	成績	氏名(学年)
放 送 委 員 会	青森県高等学校文化連盟放送部主催 平成30年度青森地区春季放送コンテスト		
	朗読部門	第3位	谷地中樹里(3)
	アナウンス部門	第3位	三浦 雪絵(2)
		第4位	澁谷 真呼(3)
		第5位	佐藤 悠多(3)
		第6位	須藤 未来(3)
	アナウンス新人部門	第2位	長崎 紗枝(1)
	平成30年度青森県高等学校放送コンテスト兼 第65回NHK杯全国放送コンテスト青森県予選会		
	アナウンス部門	入 選	佐藤 悠多(3)
		入 選	澁谷 真呼(3)
	朗読部門	入 選	三浦 雪絵(2)
		入 選	荒間 衿奈(3)
	ラジオドキュメント部門	入 選	谷地中樹里(3)
		入 選	飯塚 慶(2)
	テレビドキュメント部門	第2位	青森高校
	創作ラジオドラマ部門	第2位	青森高校
	創作テレビドラマ部門	第1位	青森高校
	研究発表部門	第1位	青森高校
	総合	第2位	青森高校
	平成30年度青森地区秋季高校放送コンテスト		
	アナウンス部門	第1位	三浦 雪絵(2)
		第2位	幸田 野花(2)
	朗読部門	第6位	佐藤 陽南(2)
		第1位	飯塚 慶(2)
第39回青森県高等学校総合文化祭放送部門			
アナウンス部門	最優秀賞	三浦 雪絵(2)	
	優秀賞	幸田 野花(2)	
朗読部門	優良賞	飯塚 慶(2)	
	優良賞	木村 紅愛(2)	
ラジオ番組部門	優秀賞	青森高校	
	優良賞	青森高校	
テレビ番組部門	優秀賞	青森高校	
	優秀賞	青森高校	
研究発表部門	最優秀賞	青森高校	
第22回東北高等学校放送コンテスト宮城大会			
アナウンス部門	優良賞	幸田 野花(2)	
	入 選	三浦 雪絵(2)	
テレビキャンペーン部門	優良賞	青森高校	
平成30年度全日本合唱コンクール青森県大会	金 賞	青森高校	
第85回NHK全国学校音楽コンクール青森県コンクール			
高等学校の部	金 賞	青森高校	
第70回全日本合唱コンクール東北支部大会			
高等学校部門Bグループ	銀 賞	青森高校	
第85回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール			
	銀 賞	青森高校	
第27回青森県声楽アンサンブルコンテスト			
混声A	金 賞	青森高校	
混声B	銀 賞	青森高校	
corde	銀 賞	青森高校	
第39回青森県高等学校総合文化祭文芸部門			
散文(小説)部門	最優秀賞	佐々木世奈(3)	
	優秀賞	秋場 咲佳(2)	

部 活 動 の 記 録

令 和 元 年 度

部 活 名	大会名/種目	成績	学年・氏名
ハンドボール部	第72回青森県高等学校総合体育大会ハンドボール競技		
	男子団体	第3位	青 森 高 校
水 泳 部	第72回青森県高等学校総合体育大会水泳競技		
	男子総合	第3位	青 森 高 校
	男子 50m自由形	第1位	2-5 熊澤 真翔
	男子 100m自由形	第1位	2-5 熊澤 真翔
	男子 100m平泳ぎ	第2位	2-6 森山 翔瑛
	男子 100m平泳ぎ	第3位	2-6 山内 恒河
	男子 200m平泳ぎ	第2位	2-6 森山 翔瑛
	男子 100m背泳ぎ	第3位	1-2 對馬 瑛士
	男子 4x100mフリーリレー	第3位	青 森 高 校
	男子 4x100mメドレーリレー	第3位	青 森 高 校
テ ニ ス 部	青森県高校春季テニス選手権大会		
	女子シングルス	第3位	3-6 福士 舞
	女子ダブルス	3-4	石村 瑚彩
		3-6	福士 舞
第72回青森県高等学校総合体育大会テニス競技			
女子シングルス	第3位	3-6 福士 舞	

文 化 部

部・委員会名	大会・コンクール名/種目	成績	学年・氏名
将 棋 部	第62回青森県高等学校将棋選手権大会		
	男子団体戦	第1位	青 森 高 校
	男子個人戦	第2位	2-3 工藤麟太郎
	男子個人戦	第3位	3-4 木浪 悠太
	男子個人戦	第3位	1-6 高森 祐樹
	女子個人戦	第1位	2-5 石川明香里
	女子個人戦	第3位	2-2 福富 葉月
	放送委員会	平成31年度青森地区春季高校放送コンテスト	
アナウンス部門	第1位	3-1 三浦 雪絵	
新人アナウンス部門	第1位	1-3 森 朋香	

運 動 部

部 活 名	大会名/種目	成績	学年・氏名
陸 上 競 技 部	青森県春季陸上競技選手権大会		
	男子 やり投げ	第3位	3-3 齊藤凜太郎
	女子 400m	第1位	3-1 黒瀧 翠
	女子 5000m競歩	第3位	3-2 島 七海
	第72回青森県高等学校総合体育大会陸上競技		
	男子 4x400mリレー	第2位	青 森 高 校
	男子 やり投げ	第1位	3-3 齊藤凜太郎
	女子 400m	第3位	3-1 黒瀧 翠
	女子 4x400mリレー	第2位	青 森 高 校
	ボ ー ト 部	令和元年度春季ボート選手権大会兼むつ市長杯争奪競漕大会	
女子舵手付オドルブル		第1位	青 森 高 校
男子舵手付オドルブル		第2位	青 森 高 校 A
男子ダブルスカル		第1位	青 森 高 校 A
男子ダブルスカル		第2位	青 森 高 校 B
男子シングルスカル		第2位	3-3 山谷 孟央
男子シングルスカル		第3位	2-6 佐々木秀悟
第72回青森県高等学校総合体育大会ボート競技			
女子総合		第2位	青 森 高 校
女子舵手付オドルブル		第1位	青 森 高 校
男子総合	第2位	青 森 高 校	
男子舵手付オドルブル	第1位	青 森 高 校	
男子ダブルスカル	第2位	青 森 高 校	
男子シングルスカル	第2位	3-3 山谷 孟央	
弓 道 部	平成31年度春季県下高等学校弓道大会		
	男子団体	第2位	青 森 高 校
	男子個人	第2位	2-5 寺山 友貴
		技能優秀賞	2-5 寺山 友貴
第72回青森県高等学校総合体育大会弓道競技			
男子個人	第3位	3-2 長内 陸斗	



# 無限に広がる良いご縁

~for going to infinity~

## 令和元年度 幹事/第45回生 (平成7年卒) 青森高校同窓会・総会

8月11日 山の日

於 ホテル青森 青森市堤町1丁目1-23

総会16時より/懇親会17時より (受付16時30分から) 会費/5,000円 (懇親会費)  
お問い合わせ先/TEL 017-729-2866 (株式会社あおでん内 香賀省志)



### 2019年青高同窓会当番幹事リーダー (第45回生 平成7年卒業)

代表幹事 唐牛 貴文 (かろうじ たかふみ)	実行委員長 香賀 省志 (こうが せいじ)	事務局 佐藤 還 (さとう たまき)
事務局 肥後 奈実 (ひご なみ)	総務委員長 佐々木紀人 (ささき のりひと)	財務委員長 川崎 陽子 (かわさき ようこ)
広報委員長 永澤 芽衣 (ながさわ めい)	企画委員長 伊藤 亮 (いとう りょう)	

#### 編集後記

同窓生の皆様から創立百二十周年記念事業協賛をはじめ、多くの場面で御支援をいただき、母校の発展を願う一人一人の尊い思いの大きさを日々実感しております。会報を通じて、同窓生の皆様の親睦を深めるお手伝いができたらと思います。原稿をお寄せいただいた皆様、本当にありがとうございました。